

と太刀を振り上げて、一討と斬りかけました。こゝまで語り來りしとき、花太郎は王様に對ひ、
 『王様よ、これにて私の今日の役目だけは済みましたから、この話續きは、明日いたしますことにして、今日はこれで御免被ります。』といつてお話をやめました。(つづく)

指輪の遊び

其一

七八人で、輪を作つて、一筋の紐に指輪を通して其紐の兩端を結んで輪にして、各自夫を兩手で握つて、アチラコチへしごいて居る、指輪は、夫に従つて、又アチラコチラへ回り歩いて誰の手に居るか分らない様にする。そして、真中に一入居て此人の手に指輪が這入つて居ると思ふと、其人の

手を捕へる。あけて見えないといふと、又始める。お仕舞ひに捕はつた人が真中に出て、其番に當るといふお遊び。

其二

矢張り同じ程の人数で輪を作つて兩手を擴げて膝の上に置く。真中に一人指輪を持つて、周圍の人の兩手を指輪持つた手で軽く叩いて行くと、叩かれた人は、皆手の掌を握る。そして誰か其中の一人の手の掌に指輪を置いて行く。そうすると、指輪は、誰の手の中に握られて居るか分らない。そこで、他の人が一人出て、『誰さん』といつて、指輪を握つた人を言ひ當てるのです。若し當て損ねたら、其人は罰として何か藝をやらされる。

潮干とさゞえ